

令和7年度事業報告について

近年の日本の労働市場は、人口減少と高齢化により慢性的な人手不足が定着してきています。その中で、女性と高齢者の労働参加率の上昇が労働力供給を下支えしているとの分析が示されています（令和7年8月23日ジャクソンホール会議における日本銀行植田和男総裁の講演より）。

当センターの令和7年度の会員数は752人で、前年度から8人減の結果となりました。ただし、入会者数は前年度から16人増の109人となり、特に女性の入会者数は55人で、これは平成24年に公益法人移行後では最も多くの入会者数となりました。

退会者数は117人で、前年度から24人減少となりました。総務部会を中心とした会員親睦活動など、就業機会の提供以外の活動が退会抑制に効果を発揮していると考えています。

会員の年齢区分別状況では、平均年齢76.1歳（前年度75.7歳）、70歳以上会員数の割合は85%（前年度83%）と高齢化が進んでいます。このような後期高齢者中心の構成状況から、公共施設管理群など一部の就業先で制度化している「就業年齢の上限制度（適正・公平な就業の取扱要綱第8条）」の見直しについて事業部会が中心となり検討を行い、84歳の上限を撤廃し、健康で就業意欲のある高齢者の就業機会の拡大を図ったところです。

次に事業の状況では、受託事業での事業実績が4億2,131万1,457円（前年度4億2,622万9,144円）で、前年度から1.2%減の結果となりました。公共事業は堅調（前年度4.4%増）であった一方、民間企業では軟調（前年度10.6%減）な結果となりました。これは、前年度上半期をもって閉店により契約終了となった大手小売店の影響が強く出たものとなり、10月以降の下半期実績では、前年度2.9%増となっています。

派遣事業の事業実績は4,943万8,652円（前年度4,701万1,021円）で、前年度から5.2%増と堅調な結果となりました。

その他、令和7年度事業計画で取り上げた各種取り組みや施策の実施状況については以下の通りとなります。

1. 会員

- (1) オンライン入会説明会を開始し、パソコンやスマートフォンからいつでも入会説明会に参加できるようにしました。令和7年度は22人からの申し込みがあり、令和7年度中の入会者数は7人となりました。（令和8年度からの入会予定者数5人）
- (2) 自主的な地区活動として、地域の清掃活動等の社会奉仕活動やPRチラシの掲示等PR活動を行いました。
- (3) 定例の入会説明会を35回、出張入会説明会を7回開催しました。
- (4) 会員親睦活動として、総務部会主催のお花見会とパークゴルフ大会を開催しました。会員サークルは1サークル、40回の活動を実施しました。
- (5) 入会促進コーディネーターによるPR及び入会促進活動を実施しました。女性交流会「夢の輪」では、会員以外の参加者も積極的に集い、延べ162名の一般参加者に対して入会を呼びかけました。

2. 就業

- (1) 受託事業で就業する会員が「特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律（フリーランス法）」による保護を受け、安心・安全に就業できるよう、発注者・会員・センター間で契約関係を持たせる包括契約への移行を進めました。また、専門の説明員（弁護士）を登用し、包括契約への移行を進め、令和7年度末までに95%以上の移行を達成しました。
- (2) ハウスクリーニング事業の展開等、家事支援サービスへの需要に対応しました。
- (3) 市民向け剪定講習会を開催し、入会の促進と剪定作業員の拡充に努めました。参加者11人、入会申込3人の結果となりました。
- (4) 派遣事業を推進し、前年度から5.2%の実績増を達成しました。
- (5) 千葉県シルバー人材センター連合会が主催する派遣就業会員対象の講習会への協力を行いました。

3. 安全・適正就業

- (1) フリーランス法対応の包括契約への移行を引き続き推進しました。

- (2) 安全管理委員会、職員による就業先の安全巡回を実施しました。また、各会議の場で事故状況報告や安全啓発を呼び掛けました。
- (3) 厚生労働省・全国シルバー人材センター事業協会により作成された「適正就業ガイドライン」の周知徹底とガイドラインに基づく適正な契約に取り組みました。
- (4) 会員から募集した安全標語を掲げて、安全意識の向上を図りました。

4. 組織運営

- (1) 「改正公益認定法」に基づく外部理事、外部監事の登用を進め、理事の3分の1、監事の2分の1を外部役員とする役員構成とし、ガバナンスの向上を図りました。
- (2) 法人のガバナンスやコンプライアンス意識向上を内容とした役職員研修会を実施しました。
- (3) 新規入会者、就業会員を対象に、接遇・ハラスメント防止研修会を開催し、22人が受講しました。
- (4) 会員親睦行事として、総務部会が主催してお花見会とパークゴルフ大会を開催し、延べ31人の参加がありました
- (5) 総務部会、事業部会、広報部会、安全管理委員会の令和7年度検討事項は以下のとおりです。

部会・委員会	検討事項
総務部会	・ 会員交流行事の企画・主催
事業部会	・ 適正公平な就業の取扱要綱の見直し ・ 単発受注の単価改定
広報部会	・ 「生きがい通信」の企画・校正・編集
安全管理委員会	・ 安全標語の募集・選定 ・ 就業先安全巡回

- (6) 地区会議や普及啓発活動の実施、理事と地区委員による理事会報告会の実施など、理事と地区委員を中心とした会員主体の地区活動を実施しました。

- (7) ふるさと納税返礼品として海浜霊園のお墓のお掃除代行業を継続して提供し、令和 7 年度は 19 件の作業を実施しました。（前年度実績：15 件）

5. 経営健全化

- (1) 将来の収支状況のシミュレートを行い、事務費率の引上げの可否、引き上げの時期について事務局で検証を行い、令和 9 年度以降の事務費率引き上げを見据えた準備を開始しました。
- (2) 包括契約の適正な運用や経理処理等について、上部団体や他市センター、弁護士や会計士など各方面との情報交換を通じて見識を深めました。
- (3) 包括契約に対応した財務諸表の表記変更を行いました。
- (4) 令和 7 年 4 月 1 日施行「改正公益認定法」による新たな公益法人会計基準について、事務局において導入に向けた研究・理解を進めました。
- (5) オンライン入会システムや会員専用サイト Smile to Smile などデジタル活用による事務効率化と経費圧縮を進めました。（通信運搬費前年度比△20%、印刷製本費前年度比△31%）
- (6) 収支双方を見据えた財務運営を進め、長期にわたる収支不均衡状態を脱し、令和 7 年度は経常収支差額 1,731,014 円のプラスを計上しました。

6. デジタル化の推進

- (1) オンライン入会システムを導入し、いつでも入会申し込み可能な環境を整備しました。
- (2) 会員専用サイト Smile to Smile による情報発信を中心とし、コストの圧縮を図りました。
- (3) スマートフォン講座を 4 回開催し、延べ 27 人の参加となりました。

(参考：年度別女性入会者数)

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
入会 (人)	34	22	41	33	41	37	27
年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
入会 (人)	38	27	39	32	40	29	55

(参考：受託事業月別実績前年度対比)

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	上半期
前年度	39,035	37,164	38,015	39,763	35,383	35,622	224,982
当年度	36,925	35,938	36,238	36,998	32,548	35,513	214,160
前年比	94.6%	96.7%	95.3%	93.0%	92.0%	99.7%	95.2%

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	下半期
前年度	36,722	35,222	34,257	30,623	30,283	34,140	201,247
当年度	38,392	35,142	35,289	31,964	30,833	35,532	207,152
前年比	104.5%	99.8%	103.0%	104.4%	101.8%	104.1%	102.9%